同学会事業支部交流会

江蘇･浙江･上海地区分会

2016年5月14日(土)

無錫　江蘇太湖明珠国際大酒店

交流会概要

- 参加者:61名

- 出張者:山田陽城(評議員)
- 　　太田晶子(協会職員)

- プログラム:
- 1. 座長　孫偉氏(華東分会支部長　江蘇省中医医院腎内科主任)挨拶
- 2. 同学会・李忠金秘書長より2016年度の活動と今後の展望について
- 3. 日中医学協会役員　山田陽城先生のご挨拶
- 4. 講演
- ・戴豪良(第3期生　上海復旦大学中山医院教授)
- 　　『健康と養生の是非長短について』
- ・殷猛(第27期生　上海交通大学医学院附属児童医学センター　副主任医師)
- 　　『健康・養生は心から始まる』
- ・孫海晨(第27期生　南京軍区総医院創傷外科主任)
- 　　『災害医学の新発展』
- 5. 同学会会員の自己紹介及び近況報告(上海分会)
- 6. 学術交流大会2016東京について(戴豪良常務理事)
- 7. 日中医学協会からの伝達事項(第39期募集・30周年記念事業)
- 8. 懇親会

報告

- 評議員　山田　陽城

- 同学術交流会には上海・江蘇支部より60名以上の会員が出席した。その内訳は第2回笹川生から昨年度の笹川生まで幅広い世代が一堂に会したもので、昨年の広州支部での学術交流会に比べるとより活気に満ちていた。

- 会は上海・江蘇支部会長の挨拶に次いで、日中医学協会を代表して山田が挨拶、次いで太田氏が挨拶に加え、笹川奨学制度について議論されていることや10月の同学会記念行事の準備状況などについてアナウンスした。

- 次いで学術大会で予定されていた講演として「食事と健康」と「災害医学」等の興味ある講演があった。しかし時間がおしていたため予定されていた残りの講演は支部長の判断で中止され、出席者全員の紹介が行われ1人ずつ現在の仕事や笹川奨学生としての思い出などが述べられたようである（中国語であるため雰囲気のみ）。

- この企画は大変素晴らしく笹川生として日本で学び、帰国後から現在の個々の活躍を会員相互で知ることができた点は、今後の支部会の運営と協力体制の点でもよかったと思う。

- 前回の広州支部学術交流会では学術講演のみであったため、講演者についての活動は理解できたが、その他の出席者については懇親会での個別の会話以外は交流の機会がなかったことを考えると、日中医学協会の立場でばかりか会員相互での理解にも有益なものであった。

- その後、今後の笹川奨学制度のあり方についても会員相互で真剣な意見交換が幅広い年齢層の間でなされ、支援を受けるだけでなく同学会会員がこれまでとは違う何かをしなければいけないという空気が感じられたことが大変意味があったように感じられた。

- 今後各地区でこのような試みを繰り返すことでさらに同学会としての自主的な考えが纏まっていくことが期待される。笹川奨学制度の30周年の式典・シンポジウムを前にこのような会が開催されたこともタイムリーであったことと思う。

- その他、筆者は現在協会の「日中医学」の広報委員を務めているが、最近は特集テーマの決定後中国側の執筆者探しに苦労をすることも多い。今回も同学会に出席して、会員の研究テーマや専門領域がよくわかり、実は笹川生の中にも執筆依頼の対象となるような専門家がいることがよくわかった。今後、同学会の会員の研究テーマをデータベース化しておくことが望ましく、このことにより同学会という協会にとって宝となる人材のネットワークをこれまで以上に活用することができるのではと感じた。

報告

- 協会職員　太田晶子

- 今回の活動は、参加者60数名と同学会事業の支部交流会としては最大級の会合となった。

- その要因は上海・南京の理事を中心とした同学会活動が積極的に行われていることに起因している。

- 上海支部では参加できなかった会員も含めて事前に理事の呼びかけで作成された自己紹介のPPTが用意されており、世代、領域を超え、会員が互いを知るに有効な手段であると感じた。このような取り組みは他の支部でも行ってほしい旨同学会本部に依頼した。

- 又、支部会で会員から
  ①同学会青年会の発足
  ②日本人医師の研修を受け入れることによる 相互交流

という新しい提案が行われ、支部交流会が一般の会員の意見徴収の場に成っていることが実感された。

- 山田陽城先生には、評議員、編集委員会副委員長、第38期研究者指導教官、専門家という複合的なお立場でご出席いただいた。今回の座長　孫偉氏が中医であられることから専門家交流も図れ、参加会員も非常に喜んでいた。このように協会役員が支部交流会に参加いただくことは、同学会会員にとって大きな意味があることだと実感した。

- 協会からは
  現行の奨学金制度の内容(前制度との変更点)第39期生が募集中であること(申請者推薦の依頼)ことを参加会員に伝え、更なる協力を求めた。

支部交流会

会議風景

華東地区責任者　孫偉氏と山田評議員

支部交流会

同学会支部交流会

湖南･湖北･安徽地区分会

2016年6月18日(土)

湖南省長沙市　通程国際大飯店

交流会概要

- 参加者:21名

- 出張者 : 岡野友宏(日中笹川医学協力PWG委員)
  茅野芽衣子(協会職員)

- プログラム:
- １. 座長:李永国氏(華南地区責任者　中南大学湘雅第二医院教授)の挨拶
- ２. 同学会李忠金秘書長より「2016年度の活動と今後の展望について」
- ３. .PWG委員　岡野友宏先生のご挨拶
- ４. 同学会会員の自己紹介及び近況報告
- ５. 講演

・蘇海(第1期生　南昌大学第二附属医院教授)

- 『四肢の血圧差異における臨床的意味』

・李永国(第1期生　中南大学湘雅第二医院教授)

- 『増強人文素養、享受自在人生』
- ６. .学術交流大会2016東京について
- ７. .懇親会

報告

- 日中笹川医学協力PWG委員　岡野友宏

- 　会議は午後2時から6時までであった。地区責任者の李永国先生（１期・中南大学湘雅二医院）から出席者全員に挨拶と近況報告があり、次に同学会秘書長・李忠金氏によるこれまでの活動と今後についての報告、そして私からの挨拶と続いた。

- 　その後、出席者の近況報告があり、最近の活動や様々な出来事についての情報交換の場となった。長沙とその周辺のみならず、江西省・南昌、貴州省・貴陽、重慶市などから笹川生12名が出席し、さらに笹川生ではないが、李永国先生のお弟子さん4名（中南大学湘雅二医院・主任医師他）が参加した。

- 　学術研究会としての講演は2題、蘇海先生（第１期・南昌大学第二附属医院・心血管内科）はご専門の領域から「四肢の血圧差異における臨床的意味」について講演された。李永国先生はご自身のこれまでの人生を振り返りながら、医師のあり方について講演された。各々1時間余りであったが、活発な意見交換がなされた。その後の懇親会には参加者すべてが出席し懇親を深めた。

- この同学会地区分会の出席者は決して多くはないが、年齢は72歳から30歳の若手まで、地域も拡大し、そして専門領域も糖尿病、循環器内科、消化器外科、放射線治療、法医学、口腔科、医学教育、臨床検査などと多岐にわたり、時間内には互いの意思疎通が十分には図れないほど賑やかな会となった。日本財団の支援に感謝するとともに、こうした交流会を今後とも継続することが日中医学交流を促進する基盤となると確信した。
-

報告

- 協会職員　茅野芽衣子

- この地区は笹川生が比較的少ないとのことで参加人数も21名であったが、ひとりひとりの近況報告の時間を長くとり、意見交換も行いながら、和気藹々とした雰囲気の中で交流することができた。

- 　今回初めて支部交流会に参加したが、強く感じたことが2点ある。一つは、李永国先生のように、実力も人望もある先生が主催することが重要であると感じた。先生の求心力によってまとまりのある交流会になっているのではないかと思う。今回の参加者は若手（30代）と退官前後の先生方（60～70歳）が圧倒的に多かったので、李永国先生の後の世代で、5年後、10年後中心的役割を担う先生の参加を積極的に促す必要があるのではないかと思う。ただ、40、50代の働き盛りの先生方は多忙なので宿泊を伴う参加は難しいところでもある。

- 　もう一つは、日中医学笹川奨学生として充実した1年間を過ごした先生は、帰国後も同学会に積極的にかかわっているということである。今後来日する笹川医学奨学生にどれだけ有意義に過ごしてもらうかが、今後の同学会の活性化や笹川医学奨学生への推薦・応募や事業への積極的な参加に繋がってくるのだと思う。笹川制度は協会の根幹事業だと改めて実感した。

支部交流会

会議風景

支部交流会

支部交流会

同学会事業支部交流会

北京分会

2016年7月2日(土)

北京　北京唯実飯店

交流会概要

- 参加者：34名

- 出張者：林　謙治(業務執行理事)
- 　　末原珠生(協会職員)

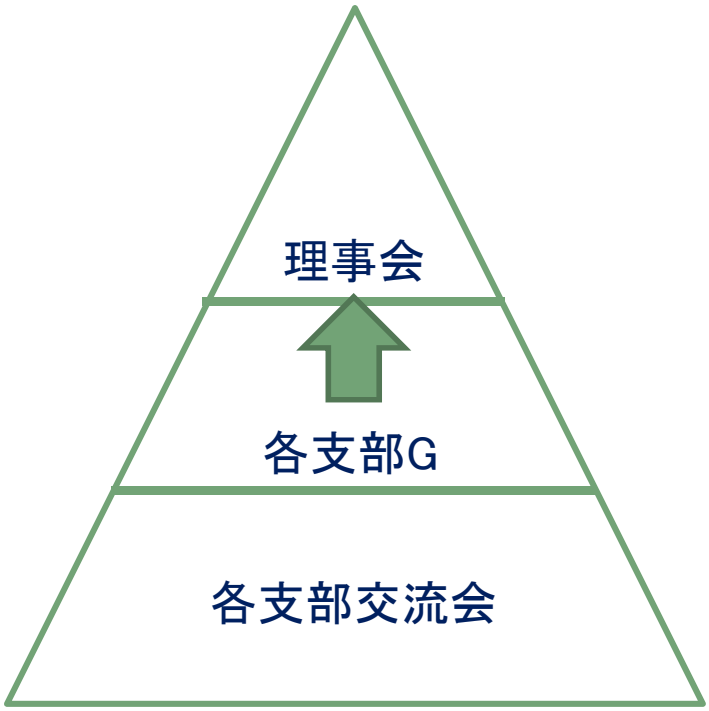
- プログラム：
- 1. 座長　韓晶岩氏（華北地区責任者北京大学基礎医学院教授）挨拶
- 2. 同学会･李忠金秘書長より2016年度の活動と今後の展望について
- 3. 講演
- ・李平（第11期生　中日友好病院研究所）
- 　　『糖尿病腎症の中医学的治療』
- ・韓晶岩(第9期生　北京大学基礎医学院教授)
- 　　『中医学の観点から心筋機能の低下に関するメカニズム解析』
- 4. 参加会員自己紹介
- 5. 日中医学協会事業紹介及び協力依頼(末原珠生)
- 6. 日中医学協会　林業務執行理事のご挨拶
- 7. 懇親会

報告

- 業務執行理事　林　謙治　協会職員　末原　珠生

- 支部交流会という名称ではあるが、北京支部の活動方針について笹川生同士で意見交換をする時間は特に設けてなく、単に顔合わせ会のような感じで、もったいなく感じた。

- 支部の活性化を図り、同学会活動全体をより発展させるために、各支部の中に WG（委員会）をつくり、支部交流会で活動方針等について笹川生から伺った意見をもとに WG で　討議し、それを支部長から理事会に提案するようなプロセスをつくると良いと思う。



支部交流会

林業務執行理事

韓晶岩地区責任者

会 議 風 景

支部交流会

同学会事業支部交流会

吉林分会

2016年7月9日(土)

延吉市　延辺国際飯店

交流会概要

- 参加者：40名

- 出張者 ： 範　江林（評議員）
- 　　岡田光子（事務局次長）

- 交流会内容：
- 1. 座長　裴海成氏（同学会常務理事）挨拶
- 2. 同学会　李忠金秘書長より奨学金制度第5次制度構想について
- 3. 講演
- 　康熙雄（第20期生　北京天壇医院教授）
- 　　『診断の過去、現在、未来』
- 4. 挨拶　岡田光子（日中医学協会事務局次長）
- 　　「日中医学協会の事業紹介」
- 5. 挨拶　範江林（日中医学協会評議員、山梨大学大学院教授）
- 6. 会員近況報告
- 7. 集合写真
- 8. 講演
- 　趙樹華　吉林大学中日聯宜医院中西医結合科教授
- 　　『中医の養生』

- 　呉龍仁　延辺大学附属医院副院長、感染症科教授
- 　　『肝炎の診断治療の現状』

- 9・日中笹川医学奨学金制度30周年記念行事について
- 　　（李忠金　同学会秘書長）
- 10.懇親会（17：30～19：30　於延辺国際飯店2F ）

報告

- 評議員　範江林

- 協会の代表として、平成28年7月10日に延辺市に於いて開催された「笹川医学奨学金進修生同学会」吉林省分会に参加した。延吉国際ホテルの広い会場で吉林省の大学および各医療機関の様々な分野で活躍している約30名の笹川研究生に出会ったことは、私にとって稀有な経験であった。

- 偶然にも、出席者の中に私の大学時代の同級生も含まれていた。また、同時に開催された学術講演会にも参加し、臨床検査分野での中国の現状や肝炎などの感染症の最新の治療法、漢方薬と健康などについての講演を聞くことができ、非常に勉強になった。最後に行われた懇親会でも参加者の多くと歓談ができ、意義のある交流会であった。

- 交流会で一番印象に残ったことは、笹川研究生たちの日本財団に対する感謝という共通の言葉であった。やはり、日中笹川医学奨学金制度があればこそ、彼らが中国で大きな成功を収められたことは疑う余地がない。残念なことに、多くの笹川研究生が今回の交流会に参加出来なかったと聞いた。

- 中国は、大変広く、加えて仕事が忙しいこともあって、一堂に会することは非常に難しいことがうかがえる。今後の支部交流活動としては、より多くが集まりやすい場所で開催することが望ましい。また、参加できなかった方の為にも常に笹川同学会活動の現状を発信する必要があるかと思う。そういったネットワークの構築が当面の大きな課題となる。

報告

事務局次長　岡田　光子

- 　今回の支部交流会には主に長春と延吉の会員が参加しており、会員近況報告では、日本の大学で博士号を取得した笹川生もあり、多くの会員が日本における研究経験をもとに、帰国後研究を発展させ、現在の地位を築いており、笹川医学奨学金制度および指導教官への感謝が述べられた。

- 　看護関係の参加者が多く、とくに中国の看護のレベルアップが課題であること、吉林地区における看護研修実施を希望している。病院内ではお互いに笹川生であることが分からず、地区分会は先輩後輩を知る良い機会となっている。
- 　延辺地区の特徴として、日本語が上手な会員が多く、日本に対する親近感が強い。しかし、現在の若手医師らのほとんどが英語を学んでおり、欧米への留学を希望している。中国の病院の仕事の競争が激しく、とくに延辺大学などのポストは長期出国により失うことになるため、海外留学を希望する若手医師が減っている。また、医学交流は地理的に近い韓国と多く行っているとのことである。

- 　10月14日奨学金制度30周年記念行事には延辺地区で20名以上が参加する予定である。

- 　今回は呉龍仁先生が中心となって運営され、懇親会後、ほぼ全員でカラオケに行って懇親を深めるなど、会員同士の結束が強いようである。

支 部 交 流 会

範江林先生の講演

会議風景

支 部 交 流 会

同学会事業支部交流会

広東･広西地区分会

2016年8月20日(土)

広東省　広州亜洲国際大酒店

交流会概要

- 参加者：30名
- 出張者 ： 江藤　一洋（業務執行理事）
  岡田　光子（事務局次長）

- プログラム：
- 1.座長丘勇超氏(同学会常務理事　広州中医薬大学)の挨拶
- 2.挨拶：齊藤法雄（日本国駐広州総領事館　総領事）
- 渡辺良子（日本国駐広州総領事館　領事兼医務官）
- 江藤一洋（業務執行理事）
- ３．講演
- テーマ：「医師の多点執業について」
- 王智琼（元広東省衛生庁副庁長・広東医師協会名誉会長）
  『行政からみた医師の多点執業について』
- 丘勇超（第5期生　広州中医薬第一医院泌尿器外科教授）
  『医師からみた医師の多点執業について』
- 曹双権　深圳市都安全健康産業投資有限公司広州地区域経理
  『民間資本からみた医師の多点執業について』
- 徐武華（第26期生広州市赤十字病院神経内科　主任医師）
  『医師の多点執業について』
- 陳国奮(第26期生 南方医科大学南方医院　副主任医師）
  『医師の多点執業—春夢の一つ？』」

４．日中医学協会からの伝達事項(岡田事務局次長)
５．同学会からの伝達事項(呉久利同学会職員)
６．懇親会

報告

- 業務執行理事　江藤　一洋

- テーマの選び方は、専門に係らないという意味で面白かったし、毎年当地の領事館の参加を求めているという意味でよかった。参加メンバーのまとまりもよかった。

- 同学会事業という括りのなかでは、この広州の学術交流会の良い方法を取り入れ、全体で行っていく必要がある。

- 年度計画が作成された時点で関係団体及び北京の大使館に報告し、各所の協力を求める必要がある。

- 学術交流会の位置づけ、参加者の考え方は現在地方の実施責任者の考え方にゆだねられているが、基本とする考え方、誰を呼ぶのか、目的は何かということを定めるべきである。

報告

- 事務局次長　岡田光子

- 医歯薬看護の全領域の会員の関心が得られ、かつ新しい課題をテーマとして取り上げて活発な意見交換が行われていることが、支部の活性化に繋がっていると思われる。

- 医師の不足と偏在は日本も同様の課題があるので、日本の専門家との意見交流ができれば、さらに支部交流会の意義が深められるのではないか。

- 齊藤総領事より、「広西チワン族自治区の留日組の集まりでは10名のうち7名が笹川生であり、奨学金制度の人材育成が辺境地区まで及んでいることに感心している。同学会の事業実施においては各地の日本領事館と連携するほうがよい」とのアドバイスをいただいた。今後は開催地の日本領事館や当地の衛生行政、学会関係者とのネットワークの拡大を図るとよいのではないか。

- 中国では、通信連絡、支払い等すべてWeChatを利用している。笹川生への連絡、入会申込、会費支払いに活用できないか。

- 領事館より配布されたマルチビザ取得手続き案内書によると、学者・文人用申請を行えばマルチビザ（5年間有効）が取得できるとのことである。

支 部 交 流 会

江藤業務執行理事の挨拶

在広州日本国総領事館
斉藤法雄総領事と丘勇超常務理事

支 部 交 流 会

同学会事業支部交流会

陝西･山西地区分会

2016年10月29日(土)

西安　建国飯店

交流会概要

- 参加者：28名

- 出張者：星合　昊(監事)
- 　　李　高娃（協会職員）

- プログラム：
- １．座長張軍氏(西北地域責任者　西安交通大学教授)の挨拶
- ２．日中医学協会監事　星合昊先生のご挨拶
- ３．同学会李忠金秘書長より今年度の事業について
- ４．講演

テーマ「心身の健康と疾病予防」

- 施旺紅（第24期生　第四軍医大学臨床心理学教授）
  『森田療法と心身の健康について』
- 王安輝（第30期生）　第四軍医大学予防医学院流行病学副主任
  『心身の健康と疾病予防―
  Precision Medicineがもたらしたチャンスと挑戦』
- 王　鈞（第30期生）　解放軍第451医院消化二科主任
- 　『ピロリ菌の過去と現在』
- 葉春峰（第16期生　西安交通大学図書館副館長）
  『心身の健康と疾病予防』
- ５．懇親会

報告

- 監事　星合　昊

- 　今回は人数が比較的集まったが、同期ごとの学術交流会や専門領域が一致した交流会の方が、更に集まりやすいと思う。

- 　講演は素晴らしく、皆きちんと聞いていたが、専門外の方が多く本当に有意義だったかは不明であった。

- 　同期であれば、日本での同じ体験や思い出があるだろうし、同じ専門領域が集まれば、面識がない笹川生同士でも同じテーマで交流を深めることができ、新たなつながりとコミュニケーションが生まれると思う。

-

報告

- 協会職員　李高娃

- 　参加した会員は自らの経験談を話されたが、皆が「笹川奨学金によって私の人生が変わりました」と日本財団と本制度に感謝の意を述べていた。

- 　このように毎年学術交流会を開催し笹川生間の交流を深めることは、同学会の活性化につながると思う。

- 　元々、西安地区には会員間の微信（ウェイシン）グループがあり、今回の会議でまた新たに会員がグループに加わった。

-

支 部 交 流 会

張軍地域責任者の挨拶

会議風景

支部交流会

同学会事業支部交流会

天津･河北地区分会

2016年11月5日（土）

天津　帝旺凱悦酒店

交流会概要

- 参加者　21名
- 出張者：小野　喜志雄（監事）
- 　　岡田　光子（事務局次長）
- プログラム：
- １．座長孟召偉氏(天津医科大学総医院核医学）の挨拶
- ２．同学会呉久利氏より今年度の事業報告
- ３．日中医学協会監事小野喜志雄先生より30周年記念行事報告
  及び 第5次制度について
- ４．日中医学協会岡田次長より協会事業の紹介及び協力依頼
- ５．講演
- 田素斎(第22期　河北省第二医院康養中心主任）
  『医養結合（医療と介護の連携）の発展の趨勢と管理実践』
- 軍平（第22期　天津中医薬大学第一附属医院副院長　）
  『津沽中医の伝承と新展開』
- 常宝成　（第27期　天津代謝病医院副院長）
  『2型糖尿病の予防・治療の進展』
- ６．同学会会員自己紹介　自由発言
- ７．懇親会

報告

- 監事　小野喜志雄

- 　１１月５日に天津で開催された同学会天津・河北地区分会に参加した。天津での分会は今年で2回目、河北省が参加するのは今年が初めてとのことであった。比較的若いグループのように見受けられた。

- 　奨学金制度の5次制度の議論がだいぶ進んできており、１０月１４日の東京でのシンポジウムでの発表を基に学位取得型と共同研究型の話をした。また今後の共同研究を考える上での日本が抱える保健医療上の課題なども紹介して、日中両国の共同研究が進むことの期待感などの話をする。

- 　その後、田素斎先生は中国が進めようとしている医養結合（医療と介護の連携）についての話をされた。また、張軍平先生は天津の中医の歴史について、常宝成先生は糖尿病の研究および最新の治療についてわかりやすく話をされていた。いずれも今後の重要な研究課題となりそうな講演であった。同学会の会員たちの5次制度への期待が少しずつ膨らんできているように見える。今後、日中の研究者が双方で共同研究を実施して、解決困難な課題に取り組んでいくことが望まれるところである。

支部交流会

小野　喜志雄監事の挨拶

会議風景

支部交流会

同学会事業支部交流会

日本支部活動報告

2017年2月5日（日）
於：兵庫県明石市アスピア
国際まちの保健室

2017年3月4日（土）
於：ビジョンセンター東京
日本支部学術交流会・総会

支部活動報告

- 「国際まちの保健室」
- （平成28年度　元中国残留邦人とその家族等を対象とした健康講演会と健康相談会）
- 関西在住の同学会会員である呉小玉氏(兵庫県立大学　地域ケア開発研究所教授)より、兵庫県立大学で継続的に行っている「国際まちの保健室」の活動で中国残留邦人とその家族を対象としたボランティア活動があるので、中国語が理解でき、医療の知識のある日本支部会員への協力の要請があった。
- この要請を受け、同学会日本支部のメンバー6名（袁　世華、謝　海棠、程　紹華、張　暁春、呂　玉泉、胡　沁）が、この活動に参加し、講演、健康相談を行った。

- 当日参加人数：108名

元中国残留邦人とその家族等を対象とした健康講演会と健康相談会

- ・日程：平成29年2月５日（日）

- ・13:00開場、13:30開始

- ・場所：明石市アスピア7階学習室1A&1B
- ・参加費用：無料

- 13:30～13:40　　開会の挨拶
- 　　（中国残留日本人孤児を支援する兵庫の会事務局長: 水野　浩重）

- 13:40～14:40　　講演「誰でもできる中医外治法」
- 　　（講演者：袁　世華）
-
- 14:40～15:00　　質疑応答

- 第二部：中国語による個別健康相談（血圧測定を含む）

- 15:00～16:00:
- 健康相談担当者：
- ・国際まちの保健室ボランティア看護師：（呉・高・曽・井上・李）

- ・笹川医学奨学生同学会日本支部
- 　・袁　世華（杏林中医薬情報研究所所長）
- 　・謝　海棠（東京西徳洲会病院副看護部長）
- 　・程　紹華(三重大学医学部附属病院)
- 　・張　暁春（梅花女子大学准教授）
- 　・呂　玉泉（大阪大学公衆衛生領域講師）
- 　・胡　沁　（兵庫県立大学 地域ケア開発研究所研究員）
- 16:00:　閉会

健康相談会

小児看護だが、高齢者にも対応

急性期認定看護師も忙しく、待っている方が多い

健康相談会

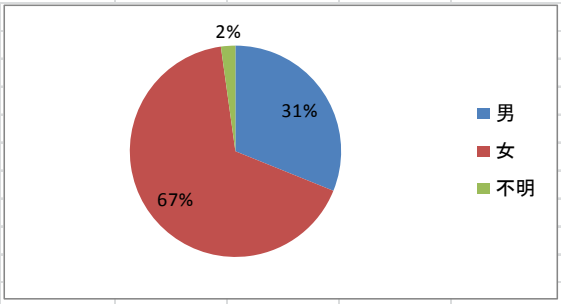
日中医学協会の岡田次長もボランティアの服を着て相談の順を調整役してくださった

参加者アンケート

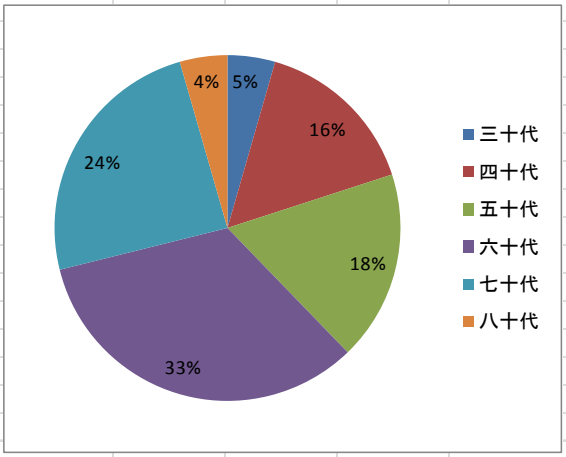
2月5日（日）開催「中国残留邦人とその家族等を対象とした健康講演会と健康相談会」アンケート結果

参加人数108人回収45人

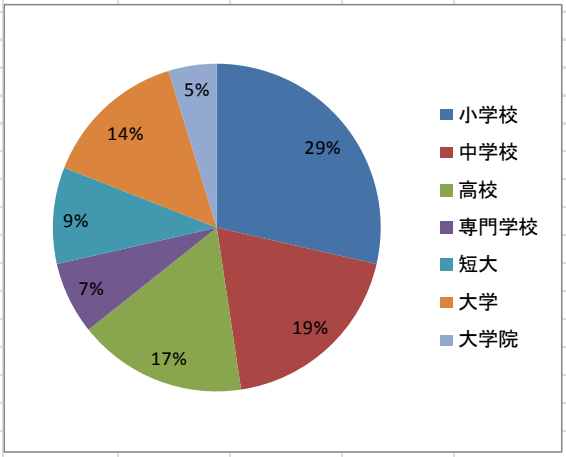
性別	
男	14
女	30
不明	1



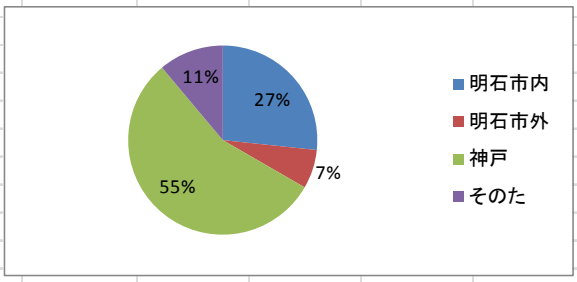
年齢	
三十代	2
四十代	7
五十代	8
六十代	15
七十代	11
八十代	2



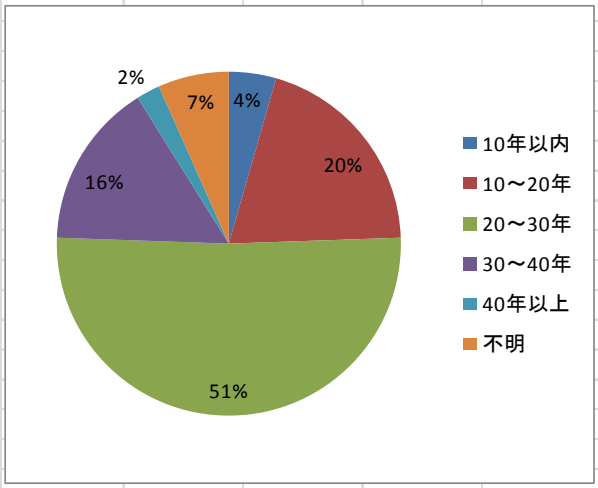
学歴	
小学校	12
中学校	8
高校	7
専門学校	3
短大	4
大学	6
大学院	2



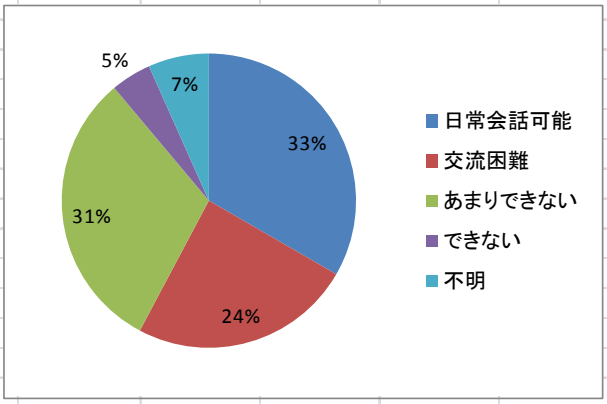
住所	
明石市内	12
明石市外	3
神戸	25
そのた	5



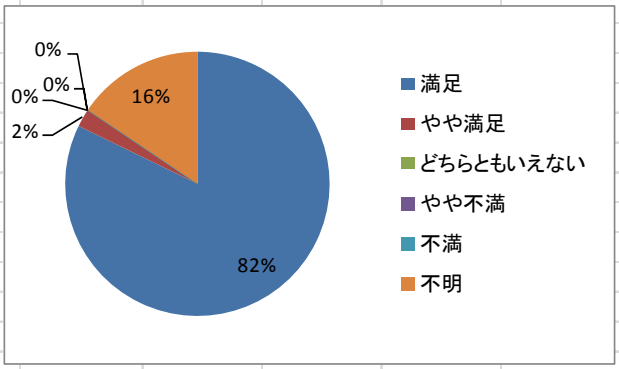
来日年数	
10年以内	2
10～20年	9
20～30年	23
30～40年	7
40年以上	1
不明	3



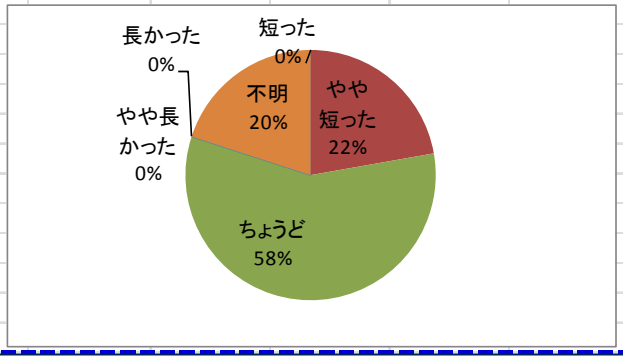
日本語能力	
日常会話可能	15
交流困難	11
あまりできない	14
できない	2
不明	3



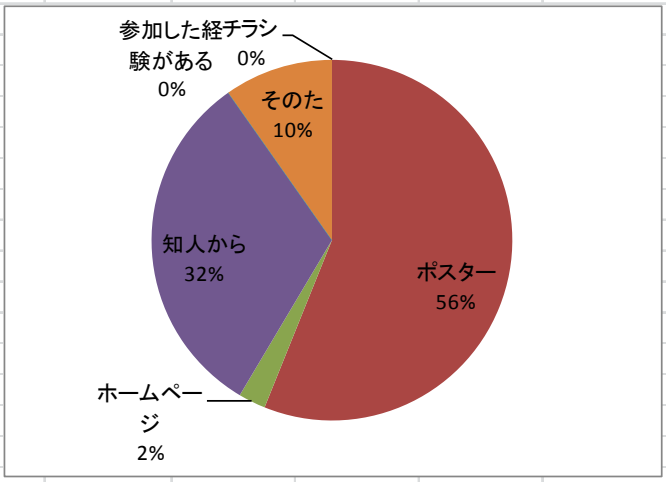
全体的な満足度について教	
満足	37
やや満足	1
どちらともいえない	0
やや不満	0
不満	0
不明	7



時間の長さ	
短った	0
やや短った	10
ちょうど	26
やや長かった	0
長かった	0
不明	9



参加のきっかけ	
チラシ	0
ポスター	23
ホームページ	1
知人から	13
参加した経験がある	0
そのた	4



参加した感想(よかった点、よくなかった点など)		今後取り上げてほしい内容やご要望
よかった(18人)。		そのままでいい(5人)
長い間国から離れて、漢方の知識が殆ど忘れていた。この様な活動に参加して知識が増えた。		高齢者に対する健康にいい食生活の知識が欲しい
分かりやすくってよかった、健康にとてもいい		高齢者の病気、認知症予防とか
普通の病気や高血圧への対策、注意事項と中医外治法がよかった		回数を増やしてほしい、また医療の話が知りたい
事例を紹介しながら説明してくれてよかった		もっと具体的な指導があればよかった、例えばツボの位置
内容が分かりやすくて使いやすい		漢方の知識を普及してほしい
健康問題について中国語で話してくださる機会はとてもありがたいです。帰国者のみんなにとって非常に有益だと思います。		また来てほしい
初めて「外治法」を聞いて、中医がすごいと思った。勉強になった。人形を使ってツボを説明してくれればもっとよかった		もっと交流してほうしい
健康、休養、治療についてわかった		漢方の知識を普及してほしい
詳しくてわかりやすかった		1年1回ぐらいやってほしい(2名)
中国語でよかった		この様な活動がもっとほしい
		これからもこうした催しのあることを期待しています。
		中医の薬の使い方
		定期的に開催してほしい
		中医

日本支部交流会概要

- 日時:2017年3月４日(土)
- 参加者　28名
- プログラム:
- 第1部　学術講演会
- 14:05～14:45　学術講演会「震災後の福島の医療事情について」
- 講演者　趙松吉(福島県立医科大学　教授)
- 14:45～14:55　質疑応答
- 休憩
- 第2部　日本支部総会
- 15:00～15:20　支部長挨拶、役員紹介
- 今年度事業報告及び会計報告
- 15:20～15:40　参加者自己紹介
- 15:40～15:50　日中医学協会の挨拶および事業に関する説明

- 15:50～16:50　協議

- 議案1　日本支部役員体制について(事業別担当役員の選出)
- 議案2　来年度事業について(役員会案の承認)
- 議案3　その他日本支部の活動に関する提案
- 懇親会

支 部 交 流 会

- 　学術講演として、同学会会員の趙松吉教授(福島県立医科大学)の講演があった。
- 　交流会の後半実施された協議に於いては、
- 日本支部役員体制について(事業別担当役員の選出)
- 来年度事業について(役員会案の承認)
- その他日本支部の活動に関する提案

が協議された。その結果、

- 新規に役員を2名追加し、新しく副会長、事務局長が選任された。
- 役員全員に、事務局、会計、学術、イベント等の事業別に役割をあてはめた
- 今後は、各担当毎に内容の詳細について打ち合わせていくことになった。

- 　来年度事業については、今年度日本支部が協力して好評であった、「中国残留邦人とその家族等を対象とした 健康講演会と健康相談会」 を日本支部でも実施してはどうかという発言が支部長からあり、承認された。

支部交流会

趙松吉教授の講演
「震災後の福島の医療事情について」

会議風景

支部交流会

会計担当による会計報告

日中医学協会からの伝達事項